7月15日の天王祭の奉のう太こで大竹地区に伝わっています。虫追い太こともいわれています。

●五合飯

下野出島地区の青年（15才～25才）が24日の朝、米5合をもちより、これをたいて木のわんにもり、昼1度にたべる5合めしのことをいうのです。

●二夜三日の念仏

毎年8月31日、9月1日、2日と210日の厄日をはさむ3日2晩、長伝寺に集まり、念仏やじゅずくりを行って、あらしがこぬようおいのりをる行事です。

○むかしの道具や用具

いま学校では、授業の始まる合図はチャイムですが、むかしは拍子木や鐘、柄のついた鈴などが使われていました。

また明治のころの小学生の服そうは木綿の着物にぞうりばきがふつうで、雨の時はげたばき、雪の日には遠い人はうすぐつ（わらじにわらのつまがけをつけたようなもの）をはいて通学したのです。

2年生以上は自分たちで教室やろうかのぞうきんがけをしましたが、今のように水道はありません。深い井戸から2つのおけが長いくさりづなにつながれて、かわりばんこに上げ下げして水を汲みあげたのです。

その後昭和にはいるといどにかわって、木でつくられたポンプ、それから金ぞくせいのポンプになり、昭和30年ごろから電気の力で水を汲みあげるようになって、今の水道へと発展してきたのです。

ランプ

あかりについて調べてみましょう。むかし江戸時代にはあんどんといって木で作ったわくに紙をはり、中になたね油をおいて火をともした道具が室内にそ